

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームともだちの家		
所在地	〒073-0044 北海道滝川市西町2丁目3番47号 (電 話) 0125-24-5055		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年5月14日

【情報提供票より】 (平成21年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	7月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	24 人	常勤	11人,	非常勤 13人, 常勤換算 19人

### (2) 建物概要

建物構造	木造枠組み壁工法平屋 造り		
	1 階建ての	1	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	12,480~21,480 円
敷 金	有 ( 円 ) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 ) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝川市立病院、滝川脳神経外科病院、男澤医院、橋本歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市内で建設関係事業を行っている開設者が、高齢化社会の到来で生じる問題を解決しようと、地域貢献を志向して福祉事業に参入し設立された。利用料を低価格に設定することで、誰もが自由で当たり前の生活を送ることができるように、という理念でケアに取り組んでいる。医療連携体制の整備については、訪問看護を活用し健康管理を行っている。事業所の敷地内には、菜園や花壇があるなど、利用者は個々の趣味、特技を活かし役割を持って過ごすよう取り組まれている。職員配置もゆとりがあり、利用者とゆっくり時間をとって話ができる環境にある。地域への働きかけを続け、新しい理念を心に置き、職員が前向きで意欲的な事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価については、地域密着型としての理念の再考が期待されていた。職員会議等で話し合い、新たな理念作成に向けて取り組みを行っている。また、運営推進会議での報告や事業所内で評価結果を開示している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的は職員全員が理解しており、今回も一人ひとりが記入し、管理者が取りまとめている。記入により気づく事もあり、今後のケアに活かすよう取り組んでいる。今回の外部評価を、事業所内に掲示することによって、報告することを予定している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催している運営推進会議は、地域の幅広いメンバーで構成されており、多くの人が事業所を理解できるよう努めている。会議では、事業所の運営状況や行事等を報告をし、参加者と意見交換等を行うことで、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は日ごろから、家族が気軽に意見や要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。要望については直ちに検討し、希望に沿えるよう対応を行っている。なお、職員は、家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。請求書、金銭出納報告は毎月行い、2ヶ月に1度広報誌「ともだちの家便り」を発行し、利用者一人ひとりの近況も別に記載報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の理念として、「住み慣れたこの町でおたがいがさまの心を持ち続ける」とあるように、管理者はじめ職員は、地域との関係を大切にしている。町内会に加入する事で、回覧板や役員から情報を収集し、各種行事に参加している。また、地域住民や子ども達を招待し、一緒に過ごす事業所でのクリスマス会は、利用者の楽しみのひとつとなっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価をきっかけに、理念の再検討を行っている。センター方式の共通の5つの視点を基に職員会議で話し合い、地域の中で支えていくことを盛り込んだ事業所独自の5項目の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、朝の申し送りで理念の唱和をすることで、共有と確認を行い、常に意識するようにしている。日々の関わりで気づいたことが、具体的なケアに反映できるよう、職員間で実施に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者をはじめ職員は、地域との関係を大切にしている。町内会に加入する事で、回覧板や役員から情報を収集し、各種行事に参加している。また、地域の子ども達と事業所でクリスマスと一緒に過ごすなど、楽しみの機会も設けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は職員全員が理解しており、今回も一人ひとりが記入し、管理者が取りまとめている。記入により気づく事もあり、今後のケアに活かすよう取り組んでいる。今回の外部評価は、事業所内で掲示し、報告することを予定している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の幅広いメンバーで構成されており、2ヶ月に1度開催している。事業所の運営状況や行事等の報告をし、参加者と意見交換をすることで、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会や会議に参加したり、必要時には相談するなど、連携をとっている。グループホーム担当の専門職員が市に配置されており、情報交換も行っている。市内全域のケアマネジャーの会議にも、積極的に参加している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に職員はその都度声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。請求書、金銭出納報告は毎月行い、2ヶ月に1度、広報誌「ともだちの家便り」を発行し、利用者一人ひとりの近況も別に記載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日ごろから家族との交流を図り、家族が気軽に意見や要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。要望内容については直ちに検討し、希望に沿えるよう対応を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職は最小限に抑えるよう努力しており、現在は安定した環境となっている。止むなく交代する場合には、日常生活の中で利用者と同様なじみの関係を作るよう工夫し、不安やダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を認識しており、内外各種研修を盛り込んだ研修計画をグループ全体でたてている。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修にも交替で参加し、参加後も報告書が作成され、共有も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と職員が積極的に交流できる機会を作っている。同業者同士の相互交流の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の問い合わせがあった後、事前に利用予定者宅や入院中の病院を訪問し、本人や家族と面談している。その後、利用予定者が見学し、職員と顔なじみになり事業所の雰囲気になじむよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面づくりの支援を行っている。利用者から生活の知恵や料理の味付け・漬物の作り方を学んだり、昔話が励みになったり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシート使用により、利用開始時に利用者の生活歴等の情報や心身の状況を細かく収集している。その後も職員は、家族の意見や、日々の暮らしの中から気づいたことなどから、本人の希望・意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3週間に1度のカンファレンス開催により、職員の日常の気づきや、利用者、家族の意見や要望を採り入れた介護計画を作成している。目標を定め、職員が共有することで日々のケアに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、3ヶ月に1度の見直しを行っている。職員は、日常の経過記録や気づきから評価を行い、検討することで介護計画に反映している。また、利用者の状態変化に応じて、その都度見直しを行い、新たに計画を作成した時は家族に説明し確認をとっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や理美容院への付き添いなど、利用者の希望に応じた柔軟な支援を行っている。必需品の買い物や帰省、その他利用者の要望に応じた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院付き添いは基本的には家族が行っているが、難しい場合には事業所で受診を支援している。希望する医療機関へ同行受診し、状況については、その都度家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた説明を、利用開始の際に文書で行っている。利用者の状態が変化した場合等は、その都度家族に状況を説明するとともに、医療機関と連携し、状況、病態に応じて家族の意向を確認しながら対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が利用者のプライバシー確保や、誇りを損ねないことの必要性を認識しており、尊厳を守る取り組みを行っている。また、個人情報各種書類の保管、管理についても、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。起床、就寝や食事の時間は利用者の自由となっており、趣味や嗜好、これまでの生活歴を大切にしながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、利用者の持っている力に合わせて、職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルで同じものを食べ、会話を進めながら、楽しい雰囲気づくりに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能になっており、入浴状況を確認しながら利用者の希望に応じ、楽しみながら入浴できるよう支援をしている。必要に応じて、シャワー浴や清拭もさりげない声かけで行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の食事の準備や後片付け、掃除、漬物作りなど利用者一人ひとりの力が活かせる支援や、それぞれの生活歴を活かした支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、外出など、利用者の要望に応じた無理のない外出支援を行っている。また、希望を聞き、近隣市町村の観光名所見学などにも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。玄関にはセンサーを取り付け、利用者が外出する様子が見える時はさりげなく声かけし、利用者と一緒に出かけるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の緊急マニュアルは整備されており、利用者と共に年数回の防災訓練を計画している。職員交代で救急救命、蘇生法、AED講習を受講し、緊急時、災害時の避難対策等に努めている。しかし、夜間を想定した避難訓練は行っていない。	○	利用者の安全を確実なものとするために、利用者一人ひとりの具体的な避難誘導策などを検討し、日中、夜間の両方を想定した避難訓練の実施など、さまざまな不測の事態に備える取り組みが望まれる。備蓄物品等の検討、地域への協力体制整備や、緊急避難場所を家族に通知することなども期待される。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分摂取量を個別に記録しており、職員は情報を共有しながら、体調管理を行っている。今年度、テストケースとして市の栄養士によるメニューの確認も適宜行っており、身体状況や病状に合わせた食事内容となるように支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく開放的で、ソファや椅子が多く置かれ、利用者は思い思いの場所で過ごせる空間となっており、利用者の快適な居場所づくりに配慮している。不快な臭いはなく、光、温度、湿度等も適宜調節されており、一日を過ごせる憩いの場となるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者にとって使い慣れた家具や寝具、仏壇を持ち込み、本人が安心して暮らせる工夫をしている。写真などを飾り、今までの生活と変わることなく、精神的負担が軽減できるよう配慮している。		

※  は、重点項目。